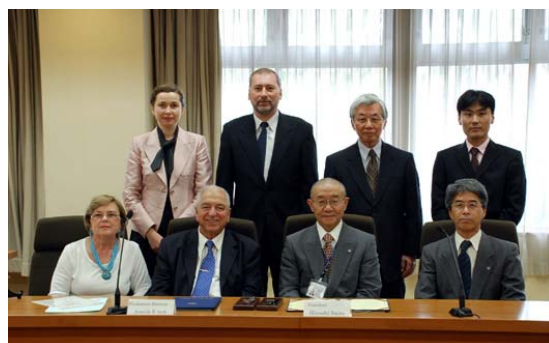


## オブニンスク医学放射線研究所（ロシア連邦）と学術交流協定を更新



協定書を交換し、握手する齋藤学長とツィーブ所長



両機関関係者との記念撮影

11月1日（木）、オブニンスク医学放射線研究所（ロシア連邦）との間で学術交流協定を更新しました。

同研究所のアナトリィ・フェドロビッチ・ツィーブ所長、同夫人の2名が本学を訪問され、松岡理事、柴田医歯薬学総合研究科教授その他の関係者立ち会いのもと、齋藤学長とツィーブ所長が協定書に署名を行い、学術交流協定が更新されました。

同研究所は、1985年ロシア連邦カルーガ州オブニンスク市に原子力の平和的利用、放射線に関する研究、診断、治療技術の開発を目的として設立されました。ロシア医学アカデミーセンターの一つで、ロシア全体の放射線医学の診断、治療、疫学の中核センターとなっています。

同研究所との交流は、1991年本学の山下教授が、チェルノブイリ笹川プロジェクトを立ち上げるためにオブニンスクを訪問し、具体的なソ連邦における学童検診プロトコールを作成したことにより交流が始まり、その後、原爆後障害医療研究施設における研究者の受入、チェルノブイリで激増した甲状腺がんをはじめとする放射線後障害に関する共同研究など幅広い分野での交流を行ってきました。

2002年に本学が採択された21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」において、十分な実績を挙げ、高い評価を得たのも、同プログラムの現地カウンターパートである同研究所とのチェルノブイリ医療協力と共同研究の成果の賜物です。

同プログラムの5年間の活動実績を継承し、新たに採択されたグローバルCOE「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」の国際放射線保健医療分野での共同研究並びに教育人材育成活動の推進のために、今後も継続的な協力体制を構築する必要があるため、このたび、2002年に本学と締結した学術交流協定を更新するに至りました。

（研究国際部学術国際課）